

令和6年度における取組等に対するその後の対応報告及び評価

開催日	学外委員からの質疑・意見	その後の取組状況	自己評価（案）	評価	評価に関する学外委員からのコメント
令和6年度 第2回  令和6.11.1 (金)	<b>令和5事業年度財務状況（国立教員養成大学）の分析について</b>  ○ 今後も人件費が増大していく局面にあるので、愛知教育大学の人件費比率がなぜ高いのかということをもう少し詰めて分析されるとよい。職員の在籍年数に応じ、給料が上がっていくということを考えると、適用している給与表での分布や年齢構成を調べながら、年齢構成も加味した人件費の分析をしていく必要があると思った。	○ 教職員の年齢構成や給与表の分布等を詳細に分析しつつ、適正な年齢・職位構成の設定、若手教員の計画的な採用、非常勤講師依存度の低減、組織・業務の見直しなど、人件費構造の最適化に向けた取組を総合的かつ段階的に進めていく。（提示資料あり）	△	△	今後とも、更に取り組んでいただきたい。

【評価方法について】

- ・令和6年度に学外委員から出た本学の取組等に対する意見について、令和7年度（今年度）にどのように取組んだかを報告し、評価を受ける。

【評価基準について】

- ・今年度の取組状況について以下の評価基準で評価を受け、併せて評価に対する学外委員からのコメントをいただく。  
 「○」：十分に取り組んでいる。（引き続き取組を期待する。）  
 「△」：取組は行われているものの更なる取組を期待する。  
 「×」：全く取組めていない。